

## 5 宇野 浩二文学碑

### ■場所

中央区系屋町二丁目

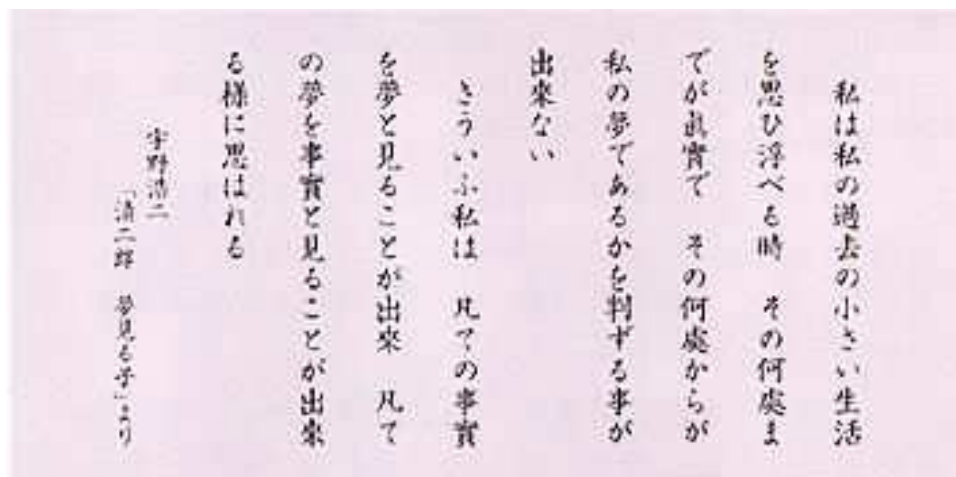
中大江公園内

### ■交通

地下鉄:谷町四丁目

(4号出口)

京阪:天満橋



### 宇野 浩二(1891年～1961年)

宇野浩二(本名 宇野格次郎)は、明治 24 年(1891 年)福岡市南湊町(現福岡市中央区荒戸一丁目)に生まれ、昭和 36 年(1961 年)9 月 21 日死去した。

育英第一高等小学校(昭和 12 年廃校)を卒業し、天王寺中学校(現天王寺高等学校)を経て、早稲田大学英文科にすすんだ。

3 歳で父を失い、4 歳のとき大阪市東区系屋町一丁目に移転し、のち南区宗右衛門町に住み、多感な青年期までを大阪で過ごした。中学校時代より文学を志し、校友会誌『桃陰』にた

びたび投稿した。

大正2年、最初の小説「清二郎 夢見る子」を出版。大正8年、「蔵の中」「苦の世界」を発表し、作家としての地位を確立した。

以後、著作活動一筋に打ち込み、大正11年、「夢見る部屋」「山恋ひ」を、翌12年、「子を貸し屋」を発表し高い世評を得たのをはじめ、「枯木のある風景」「器用貧乏」「思ひ川」など多くの著作をのこし、「文学の鬼」といわれた。

その作風は、悲しみとユーモアに満ち、自在で他に類を見ない説話体の文章に、人間の真の姿を厳しく描き出している。「夢と詩があつて人生であり、詩と夢があつての文学である」という名言を残している。

作品の中には、「清二郎 夢見る子」「十軒路地」「大阪」など、ミナミの路地に住んだ頃などを回想し、その人情や風俗を独特の文体で描写したものがある。

「清二郎 夢見る子」は、幼少時を過ごした大阪を題材としたロマンチックな散文詩風の小説集で、大阪の市井の中に永井荷風ばりの下町情緒を見つけだそうとした作品であるといわれている。

墓所は、東京都台東区松が谷一丁目の廣大寺。